

政策体系	基本目標名	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	施策主管課長	産業立市推進課
	政策名	2	地域資源を活かしたまちづくり		
施策関係課	施策名	1	中心市街地及び地域市街地の活性化		小倉 浩史
文化立市推進課、観光立市推進課、都市計画課、都市整備課、道路河川課					

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標				単位	H30	R1	R2	成果指標設定の考え方		
	①中心市街地(佐野駅周辺地区) ②地域市街地(田沼駅及び葛生駅周辺地区)	① 中心市街地(佐野駅周辺地区)活性化計画区域面積	ha	165	165						①中心市街地における店舗数が増加する、または減少しないことを把握することにより、活性化が図られていることが確認できるため、成果指標として採用した。 ②③アンケートでまちなかが便利になったと思う市民の割合を把握することにより、各市街地における各種事業の成果が確認できるため、成果指標として採用した。	
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)				区分	単位	H30	R1	R2		R3
	①商業を中心とした魅力ある中心市街地を創出する。 ②地域特性に応じた生活機能の充実、活性化を図る。	① 中心市街地のメイン通り沿いの店舗数	目標 実績	軒	320 314	321 314	322	323				① 実調査による ② 市政に関するアンケート調査 ③ 市政に関するアンケート調査 ④ ⑤

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
中心市街地の賑わい創出	①中心市街地活性化計画区域	①人の交流がさかんな、商業地域となっている。	① まちづくり会社が行ったまちなかコーディネート件数	目標 実績	件	15 19	16 3	17	18	地域市街地の特色ある発展	①田沼駅及び葛生駅周辺地区	①地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。	① 地域市街地(田沼)における定住人口	目標 実績	人	8,580 8,643	8,580 8,693	8,580	8,580
			② 空き店舗活用件数(累計)	目標 実績	件	54 54	58 57	62	66				② 地域市街地(葛生)における定住人口	目標 実績	人	2,160 2,092	2,160 2,064	2,160	2,160
			③ 市道佐野57号線の整備率	目標 実績	%	0.0 0.0	3.2 3.1	4.6	28.2				③ 空き店舗活用件数(累計)	目標 実績	件	3 1	4 1	5	6
			④ 市街地活性化施設の年間利用者数(まちなか活性化ビル、ぼるぼーと、まちなかサロン)	目標 実績	人	131,000 125,647	132,000 112,671	133,000	134,000				④	目標 実績					

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和元年度施策の取組方針	施策の取組方針・成果指標達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 持続的なまちなかの活性化を目指し、新たな中心市街地活性化基本計画の策定に向け、関係機関との協議を開始する。 さのまちづくり会社や地域おこし協力隊員と連携し、足利銀行佐野支店跡地の活用など、まちなか活性化の拠点づくりを推進するとともに、空き店舗の利活用等を促進することで、商業振興による中心市街地の活性化を図る。 市道佐野57号線の整備を推進し、市役所へのアクセス向上を図る。 空き店舗の利活用や、歩いて暮らせる集約型のまちづくり等を進めることで、地域市街地の定住人口を確保する。 	<p>取組方針</p> <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成
基本事業	令和元年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化計画に基づき、事業を実施する まちづくり会社や地域おこし協力隊と連携し、集客力を高める事業を展開する 駅南公園西土地区画整理事業の整備に向けて換地計画及び実施設計を進める 市道佐野57号線の整備に向け、詳細設計及び用地測量を実施する 中心市街地の空き店舗対策を積極的に進める 	<p>取組方針</p> <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成

基本事業	令和元年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	令和元年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化計画に基づき、事業を実施する まちづくり会社や地域おこし協力隊と連携し、集客力を高める事業を展開する 駅南公園西土地区画整理事業の整備に向けて換地計画及び実施設計を進める 市道佐野57号線の整備に向け、詳細設計及び用地測量を実施する 中心市街地の空き店舗対策を積極的に進める 	<p>【基本事業の取組方針達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化基本計画の基本方針ごとに掲げた各種事業の全体進捗率は、51事業中45事業(88.2%)が着手済、又は完了した。 まちづくり会社に委託し、にぎわい空間を利用した七夕や新春まちなかまつりを実施し、にぎわい創出に貢献した。 市道佐野57号線は、道路の詳細設計及び用地測量、駅南公園西土地区画整理は、区画整理の換地計画及び実施設計を実施した。 災害対応のため、空き店舗調査は実施できなかったが、市公式HPを通じ、空き店舗活用にぎわい創出事業補助金のPRを実施した。 <p>【成果指標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくり会社のコーディネートは、相談窓口来社方式へ変更した結果、件数が大幅に減少した。 空き店舗の利活用については、近年減少傾向にあるが、年間3件程度の活用がある。 市道佐野57号線整備事業及び駅南公園西土地区画整理事業は、事業計画に遅れはないが、整備率が全体事業費に対しての執行額であることから、令和元年度に行った業務委託を道路と区画整理で合算調整を行い発注するなど、発注段階でのコスト削減を行った結果として、上記の整備率となっている。 市街地活性化施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館又は貸館業務を休止した結果減少した。 	<p>【施策の取組方針達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年東日本台風に伴う災害対応のため、第2次佐野市中心市街地活性化基本計画の策定のための庁内策定委員会等が開催できず、年度内の策定に至らなかった。 旧足利銀行佐野支店跡地は、民設民営によるまちなか賑わい拠点の整備へ向け、民間との調整を進めた。 市道佐野57号線整備事業については道路の詳細設計等、駅南公園西土地区画整理事業については区画整理の換地計画等を計画通り実施した。 災害対応のため、地域市街地における空き店舗調査は実施できなかった。市公式ホームページを通じ、空き店舗活用にぎわい創出事業補助金のPRを実施したが、交付申請はなかった。 <p>【成果指標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地メイン通りの店舗数は、空き店舗調査を実施できなかったため、前年度の数を据え置いた。 田沼駅周辺が以前と比べてにぎわっており、生活しやすくなったと感じている市民の割合が1ポイント上昇したが、葛生駅周辺は横ばいであった。 市道佐野57号線整備事業及び駅南公園西土地区画整理事業は、事業計画に遅れもなく発注段階でのコスト削減を行った事による整備率となっている。 	<p>【基本事業の取組方針達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害対応のため、田沼及び葛生の地域市街地における空き店舗調査を実施できなかったが、市公式ホームページを通じ、空き店舗活用にぎわい創出事業補助金のPRを実施した。 地域市街地においては、商工団体(佐野市あそ商工会、葛生産業協会)等の主催によるイベントが開催されており、一時的な賑わいは創出しているが、定住人口増加には至らず、活性化につながっていない。 <p>【成果指標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田沼地域市街地においては、本町(田沼北区画整理地内)及び下町において住宅が多く建設され、人口が微増している状況である。 葛生地域市街地においては、年々人口が減少している傾向である。 空き店舗の利活用については、平成20年度以降新規の活用実績がない。

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担
	<ul style="list-style-type: none"> 各市街地のにぎわい創出、定住人口及び交流人口の増加に努めるよう求められている。 市議会から中心市街地の取組みについて、商店街等への支援制度や活性化策への意見が出されている。 少子高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりを推進するため、平成26年度に都市再生特別措置法等の一部が改正され、市町村は施設の立地の適正化に関する計画を作成することができることとなった。 さのまちづくり(株)を中心にまちなか活性化のための開発整備の動きがある。 	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> 日用品等は、可能な限り各市街地内で確保する。 各市街地内の土地所有者については、住宅、店舗として有効な土地活用を進めると共に、買い物客への効率的な駐車スペースの提供を行う。 各地域の特色を活かしたまちづくりに積極的にかかわる。 <p>事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工団体等が中心となって、活性化の具体的な方策を打ち出していく必要がある。 魅力ある店舗への創意工夫や利用可能な空き店舗の活用を積極的に行う。 各店舗等で取り扱う商品の独自性を高めることや、新鮮で安価な商品の提供、更には他業種との連携を心掛け活性化につなげる。 まちなか活性化のためさのまちづくり(株)の積極的な活動が期待されている。 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地内で必要となっているインフラ整備を計画的に進める。 地域市街地内では、既存ストックを十分活用しつつ、生活拠点として必要な住環境を確保する。 商工団体等と一体となって、各市街地の活性化施策を検討し、効果的な事業を展開する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 第2次佐野市中心市街地活性化基本計画の策定に着手し、年度内の策定には至らなかったが、計画に記載すべき各種事業をとりまとめることができた。 旧足利銀行佐野支店跡地は、民設民営によるまちなか賑わい拠点の整備の可能性について、さのまちづくり(株)等との協議調整を行った。また、中心市街地における空き店舗の利活用については、新規に3件の事業者が空き店舗活用にぎわい創出事業補助金の交付を申請するなど、一定の利活用が図られた。 市道佐野57号線整備事業及び駅南公園西土地区画整理事業は、互いに調整を図り計画的に進められている。 地域市街地では、市公式ホームページを通じ空き店舗活用にぎわい創出事業補助金のPRを実施した。 本施策の決算額は、平成30年度の8,241万円に対して令和元年度は1億50万円で、1,809万円の増となっている。主な要因は駅南公園西土地区画整理事業の皆増である。 	<p>【令和2年度で解決する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2次佐野市中心市街地活性化基本計画の策定 <p>【令和3年度以降にも引き継がれる課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①中心市街地活性化基本計画の将来像「活力あふれる暮らしやすいまち」の実現 ②まちなか活性化ビルの効果的な利活用の促進 ③中心市街地における空き店舗の利活用促進 ④地域市街地における空き店舗の利活用促進 <p>【令和3年度重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤旧足利銀行佐野支店跡地におけるまちなか賑わい拠点の整備推進 ⑥市道佐野57号線整備事業及び駅南公園西土地区画整理事業の整備促進 	<ul style="list-style-type: none"> ①中心市街地活性化基本計画に基づき、まちなかの魅力創出、賑わい創出を図る取組を実施する。 ②チャレンジショップについては、創業支援に直結するような利活用を進めるとともに市民ギャラリーについては、より多くの参加者が見込める新たな利活用を検討する。 ③中心市街地における空き店舗状況を踏まえ、対象エリアを見直し、具体的な利活用を推進する。 ④地域市街地における空き店舗活用が図られない状況を鑑み、民間団体や他事業との連携を模索する。 ⑤旧足利銀行佐野支店跡地の利活用にあたっては、さのまちづくり(株)と連携を図りながら整備を促進する。 ⑥市道佐野57号線の整備にあたっては、駅南公園西土地区画整理事業と連携を図りながら計画的に推進する。